

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価

団体名	みよし広域連合（三好市）
-----	--------------

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2023 実績	年度	2024	2025	2026	2024～2025年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
いきいき百歳体操を実施する 通いの場活動を展開する。	住民主体の介護予防教室を推進することで、地域活動を広げながらフレイル予防を行う。	65団体	目標	67団体	68団体	71団体	地域の住民が主体となって「通いの場」で、いきいき百歳体操を継続して取り組んでいただいた。また、年1回理学療法士及び保健師等が介入し、フレイルチェックや体成分分析装置による評価を実施し、介護予防や健康づくりに対する意欲向上を行った。 また、2025年度には通いの場が少ない池田地区において、ミライケ通いの場(全11回)を実施し、通いの場の認知度の向上が得られた。	○	住民主体の「通いの場」で介護予防活動を継続して行っていただく。体成分分析装置によるデータを蓄積し、経年比較検証も行き、効果的な指導を行えるようにする。併せて、理学療法士や保健師等による運動や生活習慣等の指導を行う。 また、通いの場における男性の参加者が少ないことから、男性に特化した運動教室の実施を計画する。 ※目標・実績値は、通いの場の団体数(休止含む)
			実績	69団体	70団体				
認知症サポーター数	地域や職域において認知症サポーターを養成し、サポーターにより、地域の見守りを強化することで、認知症のみならず、高齢者とその家族が抱える問題等に対し、適切な窓口につなぐ等、気づき役・つなぎ役を担えるよう図る。	3,448人 (累計)	目標	3,600人	3,750人	3,900人	中学生、高校生、市民や地域団体に対して、認知症サポーター養成講座を実施。 認知症の正しい知識や接し方を学んでもらい、やさしく手助けできる啓発を行った。	○	引き続き、認知症サポーター養成講座を実施し、地域で認知症とその家族の方を支える活動に取り組んでもらえる人材を育成していく。 また、必要に応じて認知症サポーターステップアップ講座を実施する。
			実績	3,643人	3,743人				
オレンジ（認知症）カフェ等を開催する。	認知症の人やその家族が地域の人や専門家と気軽に会える場がない。相互に情報を共有しお互いを理解し合う「認知症カフェ」等の設置を推進していく。	18回	目標	18回	18回	18回	オレンジカフェの拠点と位置付けている「辻のいろり」でオレンジカフェを毎月実施。 山城地区でも奇数月にオレンジカフェ(いきいきサロン山城)を実施。認知症やその家族、地域の方が集まって、交流、情報交換などを行った。	○	引き続き「辻のいろり」をオレンジカフェの拠点として、毎月実施。いきいきサロン山城でも偶数月に実施。 「いきいきサロン山城」の参加者が増えてきており、開催場所などを含めて、今後の運営方針を検討する。
			実績	17回	18回				

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2023 実績	年度	2024	2025	2026	2024～2025年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
認知症の方に対する早期診断・早期対応のための体制づくりを実施する。	住み慣れた地域で生活を続けるためには、認知症の高齢者等への専門職の早期の関与等が重要と考えられる。早期診断・早期対応のための体制づくりを構築していく。	1回	目標	1回	1回	1回	認知症関連の相談は急増、複雑化しており、その都度、認知症初期集中支援チームの専門職が中心となり対応した。これらの実際にかかわった事案を医療、介護、関係機関、地域住民の方に提示し、今後の対応などについて検討した。	○	認知症関連で関与する方は年々増加し、かつ、複雑・困難事例化している。医療や介護サービスになかなか繋がらないケースも多々あるが、かかわるすべての方と連携し、認知症の方やその家族の孤立を防ぎ支援する体制を構築していく。
			実績	1回	1回				
生活支援等サービスを提供するボランティアとなるための研修等を実施する。	今後は地域の介護の担い手不足が深刻化してくる。地域の生活支援ニーズと地域の元気な高齢者の活動をマッチングさせる取組を推進していく。	1回	目標	6回	6回	6回	三好市社会福祉協議会に委託して実施。2025年度は、2日間講座を5地区(東祖谷、井川、山城、三野、西祖谷)で実施。サービスbを実施できる生活支援サポーターを養成していただいた。	○	地域活動を主とする生活支援サポーター養成講座を継続して開催していく。今後はサービスBの担い手にとどまらず、介護サービス事業所の担い手としての養成や登録についても検討していく。
			実績	3回	5回				
住民主体の自主活動として行うサービスBを実施する。	多様な日常生活上の困りごと等に対応するために、地域全体で共通の意識を持ち、地域にあった新たなサービスを創出できるよう支援していく。	10箇所	目標	11箇所	12箇所	13箇所	2025年度は、通所型サービスBの実施団体が新たに1団体増加。生活支援サポーターにより百歳体操だけでなく各種レクリエーションに取り組んでいただき、地域で介護予防に取り組んでいただいた。	○	各地域でサービスB実施による介護予防活動が広がってきている。一方で、団体ごとにサービス内容や質に差が見られるが、地域の特色を残しながら、サービスの質の向上を目指していく。
			実績	13箇所	14箇所				

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2023 実績	年度	2024	2025	2026	2024～2025年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
地域ケア会議を開催する。	他職種で検討することにより有効な解決手段等を導き、自立支援に資するケアマネジメントの支援を行うことで重度化防止や自立支援につなげていく。	10回(地域ケア会議2回、自立支援型ケア会議1回、個別地域ケア会議7回)	目標	10回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議7回、自立支援型ケア会議1回)	10回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議7回、自立支援型ケア会議1回)	10回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議7回、自立支援型ケア会議1回)	目標としていた2025年までの地域包括ケアシステムを評価。新しい地域包括ケアシステムは2030年度に向けて計画を策定し、地域ケア会議の中で意見を聴取した。 個別ケア会議では、多職種が連携して支援を実施。 自立支援会議では、介護以外の専門職から意見をいただき、今後のケアマネジメントの提案をいただいた。	△	事例(個別地域ケア会議)の共有と学びを通して充実した会議を開催していく。地域ケア会議で、すべての高齢者の方を含む住民が、孤立することなく地域で自分らしい生活を続けるため2030年に向けた新たな地域包括ケアシステムの仕組みづくりを構築していく必要がある。
			実績	10回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議7回、自立支援型ケア会議1回)	7回(地域ケア会議2回、個別地域ケア会議4回、自立支援ケア会議1回)				
自主グループ活動を行っている団体等に対して介護予防についての支援を実施する。 (地域介護予防教室、地域いきいき事業等)	自主活動を行っている団体等に介護予防について啓発等を行うことで、介護予防に対する意識を高めて、介護予防につなげていく。	30回	目標	24回	24回	24回	各種団体(地域団体、身体障害者会、地区住協等)に介護予防(フレイル予防、体操等)だけでなく、人生会議(ACP)、権利擁護(成年後見制度)などの各種講座を実施。 地域いきいき事業でも各種介護予防(体操、栄養指導及び料理)やレクリエーションを実施。	○	各種団体からの希望に応じた内容の介護予防に関する支援を行っていく。
			実績	36回	41回				